

口腔機能の評価

1. 運動機能…運動の力、運動速度、運動の巧緻性（巧みさ）をみる。

（1）うがいテスト

- ①リンシング（ブクブクうがい）テスト
- ②ガーグリング（ガラガラうがい）テスト

（2）オーラル・ディアドコキネシス

「パ」「タ」「カ」それぞれの音は、発音される場所が異なり、オーラル・ディアドコキネシスは、舌や口唇の運動機能の評価に用いられる。

2. 咀嚼機能評価…かむ力をみる。

（1）咬合力評価

- ①咬合圧の測定
感圧シート（デンタルプレスケール）を用いた評価
- ②咬筋の触診
咬筋の緊張度を診る触診

（2）咀嚼力評価

- ①残存歯数または補綴歯数
自分の歯が多数ある、あるいは補綴されていると、そうでない場合に比べて咀嚼力が高い。
- ②摂食機能測定ガム（キシリトール咀嚼力判定用）
咀嚼により色が徐々に変わる咀嚼力判定ガムを用いた評価

3. 嚥下機能評価…嚥下運動をみる。

（1）反復唾液嚥下テスト（RSST）

誤嚥の有無を判定するにあたり、簡便な方法。30秒間に、空嚥下を可能な限りしてもらおう。3回以上空嚥下ができれば正常とされている。

（2）改訂水飲みテスト（NWST）

3mlの冷水を舌下に注入し、嚥下を指示し、その時の状態を観察する。

口腔機能の評価

口腔運動機能	名称	(1)うがいテスト	(2)運動の速度、巧緻性
	方法	① リンシング(ぶくぶくうがい)テスト ② ガーグリング(ガラガラうがい)テスト	オーラル・ディアドコネシス
	判定基準・記載	1 できる 2 口角から少量の水がこぼれ落ちる(口角がぬれる) 3 口角から大量の水がこぼれる 4 水を飲んでしまう 水が鼻に回る 5 測定不能	1 できる 2 水を少し飲んでしまう 3 むせる 4 むせてできない 5 測定不能
			口唇や舌の動きの速度やリズムを評価する。決まった音を繰り返し、なるべく早く発音させ、その数やリズムの良さを評価する。10秒間測定して、1秒間に換算する。
			パ音:口唇の動きを評価する。 () 回/秒 タ音:舌の前方の動きを評価する () 回/秒 カ音:舌の後方の動きを評価する () 回/秒 パ・タ・カ繰り返し (パタカパタカ…) () 回/秒
咀嚼機能	名称	(1)咬合力評価	(2)咀嚼力評価
	方法	デンタルプレスケールを用い評価する。 3秒間かみしめ印記されたものを専用機器で解析する。	咀嚼力に従い色が徐々に変わるガムである咀嚼力判定ガムを用い評価する。 2分間噛ませた後に、付属のカラーチャートと比較して評価を行う。
	判定基準	咬合力:単位N(ニュートン)。歯列全体にかかっている咬合力をあわせた値を表す。1N≒0.102 kgf/cm ² ※ 個人差はあるが、キログラムに換算して、大体自分の体重くらいの咬合力を持っているのが平均といわれている。	
	記載	() N	カラーチャート : 1・2・3・4・5
嚥下機能	名称	(1)反復唾液嚥下テスト (RSSTテスト)	(2)改訂水のみテスト (MWSTテスト)
	方法	30秒間に、空嚥下を可能な限りしてもらい、飲み込む際には、喉頭(のどぼとけ)が約2横指分上にもちあがる。評価者は、人差し指と中指の腹をあてて、のどぼとけの動きを確認しながら評価する。 飲み込んだ際の時間を、回数に応じて記録しておく。最大1分間観察し、1回目の飲み込みに要した時間、2回目に要した時間、3回目に要した時間を記録する。	冷水3mlを口腔前庭に注ぎ嚥下するよう指示。可能なら追加して2回嚥下運動してもらい、最も悪い嚥下活動を評価する。
	判定基準	3回以上 正常(健康な成人の場合、30秒間に7~8回程度飲み込むことができる) 3回未満 誤嚥を有している可能性が高い。	1 嚥下あり、呼吸良好、むせない、湿性嘔声なしに加え空嚥下の追加を指示し、30秒以内に2回空嚥下が可能 2 嚥下あり、呼吸良好、むせない、湿性嘔声なし ※2なら合計3回施行し、最も悪い嚥下を評価する
	記載方法	A 30秒間の回数 → () 回 B 積算時間 1回目 () 秒 2回目 () 秒 3回目 () 秒	3 嚥下あり、呼吸良好、むせるand/or湿性嘔声 4 嚥下あり、むせないand/or呼吸変化または湿性嘔声 5 嚥下なし、むせるand/or呼吸切迫